

成田市個性を生かす教育推進事業・小規模学校支援教員配置事業

一人一人のヤル気を伸ばす

市内の小中学校で実施されている「成田市教育推進事業」も今年で9年目となりました。今年度は「少人数学習推進教員」「健康推進教員」とともに新しく「小規模学校支援教員」を配置。教育現場の頼れるアシスタントとして、彼らは今日も活躍しています。

活発に授業に参加しています。

身近な相談相手
「健康推進教員」

保健室の先生には誰でも一度はお世話になったことがあるはず。具合が悪いとき、けがをしたとき、心配事があるときなど保健室の先生に会っただけで、安心できました。この安心感を求めてくる子どもたちに、心身両面からきめ細かな支援ができるようにと「健康推進教員」が配属されています。

健康推進教員は養護教諭と協力しながら、子どもたちのちょっとした変化にも気付けるように、健康観察簿を細かくチェックしたり、保健室以外の場所でも積極的に声を掛けたりと気を配ります。

そんな日々の努力の甲斐あって、保健室から出ていく子どもたちは皆、明るい表情。身近な相談相手として子どもたちの「心の居場所」になっていることは間違いありません。

今年度からのニューフェイス 「小規模学校支援教員」

小規模学校支援教員というイメージがわかりませんが、一体どんな先生なのでしょう。

現在成田市には、少子化のため

児童・生徒の強い味方 「少人数学習推進教員」

勉強は好きですか？嫌いなところが多いのでは。特に分からないところが出てくると、ますます嫌いになってしまいます。そのような子どもたちの強い味方として登場するのが「少人数学習推進教員」です。

少人数学習推進教員は、一学級の人数が多い小中学校に配属され、クラスや学年を分割して行うグループ別学習や、一つの授業を複数の教員で行うチームティーチングを実施しています。少人数学習は時間が有効的に使え、一人一人に合った指導ができるのが大きな特徴です。少人数学習推進教員は「分かる授業」で子どもたち

の「勉強が楽しく」なるのをサポートしています。授業中は教室内を回って、全員の理解度をチェック。分からないところがある子には基礎問題でしっかりと補強し、ほかの子に追いつけるようにするなど、それぞれの理解度に応じた指導をしています。

そのための授業の準備には余念がありません。教材を作ったり、連絡ノートを用意したり。休み時間や給食、クラブ活動の時間などにもコミュニケーションを図り、子どもたち一人一人が楽しい学校生活を送れるよう心掛けています。

「授業が分かるようになって自信がついた」「勉強がおもしろくなった」という子どもたちの声も。少人数学習によって個々の発言や活動の機会が増え、子どもたちが

複式学級で授業を行っている学校があります。複式学級とは2つの学年を1人の担任が受け持つ学級のことで、勉強の内容は学年によって違うので、きめ細かな指導が難しくなります。

それを解消するのが「小規模学校支援教員」。市内には小規模学校支援教員は2人。1学年1教師となるように配属され、担任の先生と合同で複数の学年を指導しています。ほとんどの授業は学年別で行い、音楽や体育などは合同で行っています。小規模学校支援教員がいることで、個人に応じた指導ができる学年別学習や、社会性・協力を身に付けるための他学年との合同学習など指導方法を工夫できるのです。また、複数の教員で複数の学年を受け持つので、学年を越えて子どもたち一人一人に目が届きます。

授業の様子はとても家庭的。子どもたちは頼りになるお姉さんが側にいるような感覚で質問し、休み時間も一緒に遊んだり、話をしたり。

複式学級を抱える学校では、小規模学校支援教員が欠かすことのできない存在となっています。

※くわしくは学務課(☎20-15801)へ。

下総中学校 少人数学習推進教員 岡田裕介 先生



1～3年生まですべての学年の数学の授業に参加しています。授業をしていると、数学が好きではない生徒は割と多いと感じます。

数学はほかの教科よりも問題を解けたときの喜びが大きいです。しかし、数学を苦手と感じている生徒は、ここに達する前に、難しいからとあきらめてしまうことがあります。わたしは生徒に、問題

が解けたときの達成感や数学の楽しさを分かってもらいたいという気持ちで一人一人の学習の支援に努めています。これからも、より多くの生徒に数学を好きだと言ってもらえるよう頑張りたいです。

向台小学校 少人数学習推進教員 黒須 毅 先生



算数の授業で各学年2クラスを3つのグループに分けて指導を行っており、わたしは、1～3年生を担当しています。授業をする中では、自分の経験や技術の無さを痛感させられることが多々あります。しかし、ほかの先生方や子どもたち、保護者の方など多くの人たちに助けていただき、毎日頑張っています。

心掛けていることは「言い訳や妥協はしない」で物事に取り組むことです。気持ちが逃げたり弱くならないように、常に克己心を持つようにしています。経験や技術がない分、若さと情熱でぶつかっていきたいと思っています。

推進教員&支援教員にインタビュー

Interview

わたしは小規模学校支援教員として、複式学級の授業を単学年で実施できるよう2年生を受け持っています。自分の担当学年はもちろんですが、休み時間や課外活動には積極的に他学年の児童と交流して、触れ合う機会が多くなるように心掛けています。そうすることで、より深く一人一人の個性を理解できることにもつながっています。



小規模学校支援教員として半年が過ぎましたが、児童と接している毎日は何かしら新しい発見があり、とても新鮮でやりがいがあります。これからも先生方、保護者の方、地域の方と交流・協力して日々の指導に力を注いでいきたいです。

名木小学校 小規模学校支援教員 武田佳保里 先生

公津の杜小学校に勤めて2年目を迎え、楽しみながら子どもたちの心身の成長を実感しています。

わたしは日々の業務の中で、常に子どもの話を聞くようにしています。「頭が痛い」と言って保健室に来てても、訴えの裏に内面的なことが隠れていたりするので、よく話を聞いてあげて、子どもたちが安心して教室に戻れるよう心掛けています。そのために、保健室のほかに休み時間や掃除の時間、廊下ですれ違ったときなどに声掛けをして、子どものちょっとした変化にも気を配るように努めています。今はまだ勉強中ですが、ここで学んだことは将来、養護教諭になったときに役立てたいです。



公津の杜小学校 健康推進教員 平野琴三 先生

求む! 推進教員 支援教員

市教育委員会では、来年度の「少人数学習推進教員」、「健康推進教員」、「小規模学校支援教員」を募集します。採用期間は、平成21年4月1日～22年3月31日です。募集要項は「広報なりた」12月15日号でお知らせします。あなたの力を教育現場で発揮してみませんか。